



男女共同参画社会を 実現するために

地域における女性の活動

人々にとって最も身近な暮らしの場として、地域は家庭とともに重要です。

今日、地域における様々な活動に対する女性の意欲は高まっており、地域活動の担い手として女性に大きな期待が寄せられています。また、実際に地域を活性化する活動は全国各地にみられます。

女性が中心的役割を 果たす活動事例

地域における女性の活動は、まちづくり、観光、環境、子育てなど多岐にわたっています。

このたび、内閣府から公表された平成20年男女共同参画白書には、地域における女性の活動の特集として取り上げていますので、その中から女性の活動事例を紹介します。

まず、沖縄県豊見城市の「ウージ染め協同組合」では、地元商工会による活性化事業アイデア募集に地元の数人の女性が応募したことがきっかけとなり、協同組合を設立し、現在ではウージ染めの技術を通して職業として安定した収入を確保したいという意識を持った女性たちの団体となっています。

特産品であるサトウキビを利用した染め物というアイデアが、様々な工夫を経て、沖縄ブランドとして認知されるまでになっています。

次に、福岡県^{かん}苅田町では、女性8名が、農耕用大型特殊免許や農業機械士の資格を取得し、農作業の受託や各種農産物の栽培を実施し、「男性が機械に乗って女性がその横で補助的な作業を行う」という従来の農業のイメージを変え、地域の農業振興に大きく貢献しています。

また、山梨県増穂町のNPO法人「スペースふう」は、環境問題に関心をもつ女性が集まって、古着や牛乳パックの回収などを行う任意団体を設立し、イベントなどで大量に出るごみの山に対する問題意識から、イベント時に使用される使い捨て食

器の代わりとなるレンタル食器を提供する環境コミュニケーション・ビジネスを展開し、その取組みが、山梨県内のみならず他地域にも波及するとともに、環境意識や文化意識の向上にもつながっています。

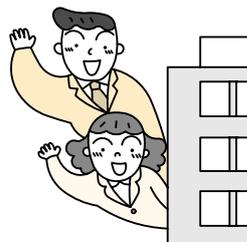
固定的な 役割分担意識の見直し

経済的・社会的な活力が低下し、地域におけるつながりが希薄化している中、地域の活力を高め、多様な豊かな地域づくりを行なうためには、男女がその個性と能力を存分に発揮できる男女共同参画社会を実現することが緊要であり、このような事例に見られる女性が中心となって展開する地域活動は、一層重要性を増してきています。

しかし、私たちの周りを見渡してみると、職場や地域で女性がリーダーとして活躍する機会は少なく、女性の力が十分に活かされていないという現状があります。その要因として、「世帯や組織の代表は男性」という固定的な役割分担意識があると考えられています。

家庭・地域・学校・職場などの日

常生活の中で、真の男女平等を実現するためには、今までこうだったからと言うのではなく、これからどうあるべきかを日ごろから考え、男女の役割分担を見直していくことが大切です。



人権啓発講座 「裁判員制度」

日時 10月16日(木)
18:30~20:00
場所 人権センター 1階会議室
講師 広島弁護士会
弁護士 小笠原 正景さん
入場料 無料
問い合わせ 人権センター ☎22-3726